

第5学年 国語科学習指導案

1 単元名 「漢文に親しむ」
～音読発表会を楽しもう～

2 単元目標

○漢文のリズムや響きに関心を持ち、さまざまな漢文の作品を進んで味わおうとする。

(国語への関心・意欲・態度)

○親しみやすい漢文について、内容の大体を知り、音読を通してリズムや響きに親しむことができる。

(言語についての知識・理解・技能)

3 評価規準

関心・意欲・態度	言語についての知識・理解・技能
・親しみやすい漢文の書き下し文のリズムや響きに関心を持ち、さまざまな漢文の作品を進んで味わおうとしている。	・親しみやすい漢文について、内容の大体を知り、音読を通して言葉のリズムや響きに親しんでいる。 (伝国(1)ア(ア))

4 単元について

本単元は、『伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項』の第5学年及び第6学年の目標ア(ア)「親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること」を受けて設定したものである。「漢文」を音読して、文章のリズムや響きを感じて読み味わうことを目的としている。

これまで子どもたちは、音読を中心にして詩や俳句、短歌などに親しんできた。漢文は子どもたちにとって初めて出会う異文化の詩である。また、俳句や短歌とは違い、中国古来の文語調の漢字で書かれた文章である。子どもたちは初めて見る漢文に戸惑いを示すだろう。そこで、まず素地として、中国の文化と歴史、そしてその時代の生活について絵や写真、書物に触れることで思いを馳せられるようにする。そして、現代の言葉とは異なる漢文独特のリズムや響きを、さまざまな方法での音読を重ねることで、楽しみながら漢文の世界へと導いていきたい。作者の生い立ちや性格、漢文が親しまれてきた古代中国の世界観を堪能させることで、昔の人のものの見方や感じ方に関心を持ち、今を生きるわたしたちとの共通点や違いがあることに気付かせ、漢文への興味・関心を引き出していきたい。

(1) 言語活動を通して身に付けさせたい力

本単元では、さまざまな形態の音読を通して漢文の響きを味わう、という言語活動を展開する。

本時で展開する発表会は、聞き手を変えて2回行う。「音読発表会その1」では、自分が選んだお気に入りの作品を、情景を想像しながら自分なりの思いを込めて音読する。一人でじっくり読み味わう時間であり、聞き手は原則、同じお気に入りの作品を選んだ友達である。聞き合うグループは、1グループ3～4人程度になるよう編成するが、人数に偏りが出た場合は、異なる作品を選んだ友達とも同じグループになることもあるものとする。「音読発表会その2」では、聞き手は選んだお気に入りの作品が異なる友達である。「その1」と同様に発表は一人で行う。

「発表その1」では、同じお気に入りの作品を選んだ友達に向けて音読をするので、読み手は解説から自分なりに感じたイメージが表現できるよう、意識して音読する。また、聞き手は友達が作品にどのような思いを込めて、どのような様子を伝えようとして読んでいるのかを、自分と比べながら聞くようにする。「発表その2」では、異なる作品をお気に入りとして選んだ友達が、どのように音読をするのかに興味を持って聞き、発表し合う。その中で、その作品を大切に思う友達の考えや、詳しく読み込まなければ見えてこなかった世界観などを感じてほしい。2回の発表会をすることで、子どもたちは自分と同じ考えに気付いて共感したり、異なる思いや捉え方に触れて漢文への関心が増したりするだろうと考えた。また、このような活動を通して、学習指導要領「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導事項ア(ア)「親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること」をねらっている。

(2) 本単元で付けさせたい力

本単元を通して、昔の人のものの見方や感じ方を、今を生きる自分たちと比べることで、古典への興味、関心を深めさせていきたい。そのためには、漢文が生まれ、親しまれてきた中国の時代背景について知ること、漢文独特のリズムや響きに十分に慣れ親しませることが大切である。

そこで本単元では、①教室環境の整備、②漢文ハンドブックの活用を手立てとして取り組む。

教室には、古代中国の様子がよく分かる絵本や物語の本を常備したり、作者の生い立ちや性格などを掲示したりし、中国の世界に浸れるような環境づくりをする。そうすることで、子どもたちが自然と漢文の時代背景について興味を持ち、現代に生きる自分たちとは違う文化や考えがあったことに気付くだろう。その中でも、景色を見て感じた思いなど、今と昔で変わらないものの見方、感じ方があることにも気付かせたい。作者について詳しく知ること、作者の気持ちになって音読をしたり、情景を想像したりする際の手掛かりになるだろう。昔の中国で親しまれてきた遊びも紹介することで、楽しみながら世界観に入り込むことができるだろうと考えた。

また、漢文のリズムや響きに慣れ親しませ、できるだけ多くの作品に触れてほしいという願いから、「漢文ハンドブック」を活用し、音読活動に取り組む。この本には、漢文を読む際の心得や漢詩3編、それぞれの作者の紹介、「論語」から5説、孔子の紹介などを載せる。掲載する漢詩は、季節やリズムを感じ取りやすいと考えたもの(「江南の春」「絶句」「春望」)、論語については、昔の人のものの見方や感じ方を捉えやすいものを選んでいく。音読の方法は、一人で読む、友達と交互に読む、追い読みをする、書き下し文と解説を交互に読む、たけのこ読みをする、暗唱をするなどである。多くの作品に触れた後は、教科書に掲載されている漢文も含め、一番のお気に入りの作品を選んでじっくりと音読をする。①リズムがよいか②様子が想像できるか、の2つの観点を提示することで、お気に入りの作品を選ぶ際の手助けとしたい。特に、リズムや響きが良いかどうかは、楽しんで音読をする上で欠かせない条件だろう。さまざまな作品に触れて、家庭学習や朝の学習時間を利用し、繰り返し取り組むことで、愛着の持てる、「大切に読んでいきたい」と思える作品に出会わせたい。漢文独特のリズムや響きを味わい、そのリズムや響きが魅力である漢文の面白さに気付いてほしいと考えた。

このような活動を取り入れることで、漢文への興味・関心を深め、漢文独特の世界観を味わおうとする態度を身に付けさせていきたい。

(3) (1) (2) の基盤となる日常的な取り組み

○漢文に親しむ機会を増やす

漢文に初めて出会う子どもたちにとって、どのような時代背景から漢文が生まれ、人々に親しまれてきたのかを知ることはとても大切なことである。全く知識の無いまま漢文に出会う場合と、中国の文化に親しんでから出会う場合とでは、子どもの漢文に対する関心や解釈に変化が見られるだろうと考える。そこで、昔の中国の人々がどのような服装で、どのような場所に住んでいて、どのようなことをして過ごしていたのかが分かるよう、教室に絵本や歴史漫画の本を設置するコーナーを設ける。

また、小学生向けの漢文が掲載されている本も常備し、多くの作品に触れることで、漢文への世界が広がっていくだろう。いつでも子どもが本を手にとることができるよう、できるだけ多くの冊数を用意したい。また、楽しみながら古典的な文章に触れる機会を増やしていけるよう、百人一首を紹介し、学級で楽しんだり休み時間に自由に遊んだりできる教室環境にする。

これらの取り組みを行うことで、新たな学習との出会いがより豊かなものになり、自然と漢文の世界に入り込んでいくことができるだろうと考える。

○音読

本学級では、音読の宿題を毎日行っている。教材文の中から選択しているが、教科書に掲載されている漢文をたくさん練習させるようにする。暗唱できるまで練習することで、音読を通して漢文のリズムや響きに親しませたい。また、朝の学習時間にも全員、ペア、またはグループ等の様々な音読方法を取ることで、1人ではできなかった読み方を楽しむことができるだろう。友達と交互に読んだり、読みたい文をタイミングを合わせて読んだり、書き下し文と解説文を交互に読んだり、さまざまな音読方法を紹介して取り寄せたい。繰り返し音読活動をする中で、リズムに乗る楽しさが実感できるだろうと考える。

5 児童の実態 (略)

6 指導計画 (全5時間)

		学習活動	指導や支援の手立て (◇評価)
一 次	1	<ul style="list-style-type: none"> ○「春暁」の白文を見て、気が付くことを話し合う。 ○「春暁」の読み方を確かめながら書き下し文を音読する。 ○情景を想像して交流する。 ○お気に入りの漢文を選び、「漢文音読発表会」を開く、という学習の見通しを持つ。 	<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">(朝学習)</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 2px;">(家庭学習)</div> </div> <p style="text-align: center; margin: 0;">漢文の音読 漢文の音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未習の漢字は漢字辞典で意味を調べるよう、声を掛ける。 ・導入でNHKの教材を視聴することで、作品の背景や中国語での読み方などを知らせ、興味を引き出すようにする。 <p>◇漢文の書き下し文の言葉の響きやリズムの良さを楽しみながら、進んで音読しようとしている。</p>

	2	<p>○前時を振り返り、音読する。</p> <p>○「静夜思」「春夜」の読み方を確かめながら、書き下し文を音読する。現代語訳を確かめながら情景を想像し、感想を交流する。</p> <p>○「論語」「大学」の本について知る。</p>		<p>・楽しみながら漢文のリズムや響きを味わうことができるよう、さまざまな音読の仕方を提案する。</p> <p>・2つの詩の夜の情景を比べながら想像するよう、声を掛ける。</p> <p>◇昔の人との共通点や違いに関心を持ち、進んで音読するとともに、それぞれの作品の内容の大体を知り、音読しようとしている。</p>
家庭学習	朝学習	<p>○教科書と漢文集の中から、お気に入りの作品を一つ選んでおく。</p> <p>○お気に入りの漢文をじっくり音読する。</p>	(朝学習) (家庭学習)	
二次	3	<p>○選んだ作品について、「お気に入り音読カード」を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味を持った理由、作品の好きなところ ・どの文をどのような思いを込めて表現したいか。 (なぜその工夫を取り入れたのか) <p>○カードをもとに、発表会に向けて音読の練習をする。</p>	今日の論語の音読 (ハンドブックより)	<p>・学習の見通しが持てるよう、教師が作成した「お気に入り音読カード」を手本として示す。</p> <p>・どのように読むと良いか分からない子どもには、質問形式の「お気に入りカード」を渡して、選んだ理由や好きな文から順を追って工夫が考えられるようにする。</p> <p>◇自分の思いや考えが伝わるように工夫して音読している。</p>
	4	<p>○「音読発表会その1」を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味を持った理由を述べる。 ・音読をする。(一人で) ・どの文をどのように工夫して読んだか知らせる。 ・友達に、良かったところを伝える。 <p>○「音読発表会その2」を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音読をする。(一人でも複数でもよい) ・自分とは違う作品を選んだ友達に、発表を聞いてもらう。 ・自由に感想を交流する。 <p>○振り返りをする。</p>		<p>・意見の交流がしやすく、発表への抵抗が少なく済むよう、グループは3～4人程度の少人数で編成する。</p> <p>・聞き手には、友達がどのような思いを込めて工夫して読んだのかを考えると良いことを知らせる。</p> <p>・自分の作品に対する考え方や思いに共通点や違いがあるかどうか、比べながら聞くと良いことを伝える。</p> <p>◇お気に入りの漢文について自分の思いを伝えたり、友達の考えを聞いたりして、作品の良さを味わおうとしている。</p>
	*	<p>○学級に向けてお気に入りの漢文を音読する。 (朝学習)</p>		<p>・一人でも複数でも、取り組んでみたい方法で全体に向けて音読をする。</p>

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

- お気に入りの漢文について自分の思いを伝えたり、友達の考えを聞いたりして、作品の良さを味わおうとしている。 (関心・意欲・態度)
- 作品の良さについて、音読練習を生かし発表するとともに、友達の発表に触れ、漢文の響きや昔の人の思いを楽しむことができる。 (伝国・言語についての知識・理解・技能)

(2) 本時の学習活動

本時まで、教科書に掲載されている漢文や、「漢文ハンドブック」の漢詩からお気に入りの作品を一つ、選んでおく。

本時では、1回目に同じ作品を選んだグループの中で、音読の発表会を行う。解説を読み、漢文の意味を読み取りながら、作品のどの部分をどのような思いを込めて工夫して読みたいか考え、ワークシートに記入する。それをもとに、一人で音読をし、友達の発表も聞いて良いところを交流する。2回目の発表会は、異なる作品をお気に入りの選んだグループの中で行う。リズムや響きを意識して読むと作品の面白さが伝わることに気付かせるとともに、友達の発表から、自分にはなかった作品の味わい方があることを楽しんでほしい。また、友達と作品の面白さ、良さを共有することで、作品への興味が高まると良い。

「良さ」を味わう観点として、①リズムや響きがよい②情景が想像できる③自分の考えとの共通点や違いがある、の3つを提示したい。

(3) 本時の展開 (4 / 4)

時程	主な学習活動と内容	支援や指導の手立て (◇は評価)
3	1 選んだ漢文を音読する。	・選んだ作品のリズムや響きの良さを意識して読むよう、伝える。
2	2 本時の学習問題を確認する。	
	「音読発表会」を開こう。	
15	3 「音読発表会その1」を行う。 ① 選んだ、興味を持った理由について述べる。 ② 音読の発表をする。 ③ どのような思いを持って、工夫して読んだのか知らせる。 ④ 友達の発表を聞いて、良かったところ、共感できるところを伝える。 (一人の発表が終わるごとに伝え合う)	・本時の発表会は、グループの友達と作品の面白いところや興味を持てる場所、リズムや響きの良さを、音読を通して味わう時間であることを確認する。 ・話の聞き方、話し方のきまりを確認する。 ・発表はリズムの良さが伝わるように、自分の思いや伝えたい考えがよく表れるように意識して読むと良いことを知らせる。 ・友達の発表を聞く際、読み手のどこが良いか上手に伝えられない子どもには、①リズムや響きが良い②情景が想像できる③自分の考えとの

		<p>共通点や違いがある、の3つを意識できるよう、観点を示す。</p> <p>◇お気に入りの漢文について自分の思いを伝えたり、友達の考えを聞いたりして、作品の良さを味わっている。(観察)</p> <p>◇作品の良さについて、音読練習を生かし発表するとともに、友達の発表に触れ、漢文の響きや昔の人の思いを楽しむことができる。(観察)</p>
15	<p>4 「音読発表会その2」を行う。</p> <p>① 音読の発表をする。</p> <p>② どのような思いを持って、工夫して読んだのか知らせる。</p> <p>③ 友達の発表を聞いて、感想を伝える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 上手に読んでいるかどうかではなく、読み手がどのような思いを込めて読んでいるのかを意識して聞くよう助言する。 • 早く終わったグループには、読み手の思いを実感できるよう、友達の工夫を取り入れた読み方をみんなで真似して音読するよう伝える。
5	5 めあてを意識していた音読を紹介する。	<ul style="list-style-type: none"> • 発表者がどの部分にどのような思いを持って読んでいるか、考えながら聞くよう伝える。
5	6 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> • 友達に自分の思いがよく伝わるように工夫して読めたか、また相手の思いはどのようなものか考えながら聞くことができたか、を書くよう知らせる。